



先月の山行

☆ 6月23日(日) 三の峰

☆ 日(日) 白木峰

7月の予定

★ 11日(木) 例会

☆ 14日(日) ~唐松、五竜

CL 宮本重信 090-8260-8108

☆ 20日(土) 雨天予備

CL

☆ 28日(日) 白山

CL

8月の予定

★ 8日(木) 納涼会

☆ 11日(日) 朝日雪倉岳 新潟県

CL

☆ 25日(日) 平家平

CL

☆ 9月8日(日) 毘沙門岳

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

を検索して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

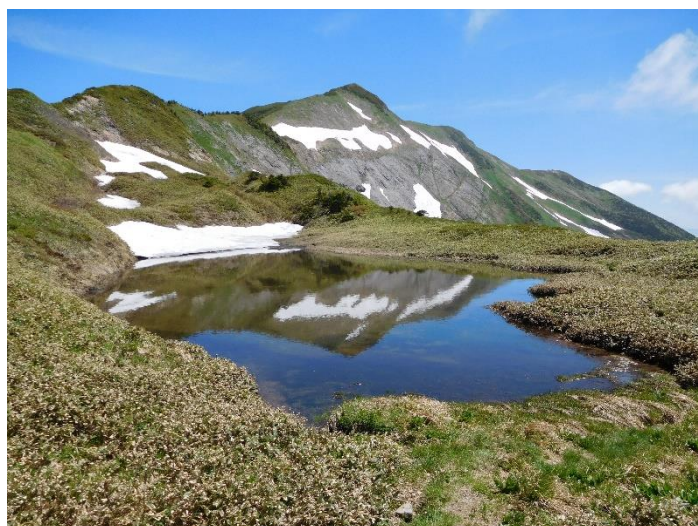
〔山行報告〕

三の峰 2128m

日時 2019年6月23日

毎年6月に会山行予定になる、あし会にお世話になりこの山の存在を知りました。自身も三の峰登頂が体力レベルの目安になっている。(標高差1200m歩行時間7時間、距離11k)かなりキツイです。この季節、歩きだすと高い湿度で汗と虫が身体にまとわりつくが山の稜線にでると初夏の高山植物が咲きはじめ私達を7月からの他県の山、アルプスへと導いてくれる魅力的な山です。山頂に近づき避難小屋付近に遭難されたカップルのレリーフがあります。愛する人にとってこの山頂の素晴らしい風景を見せてあげたかったのでしょうか。今回は天気が悪い登山と思いましたが雨に遭うことなく無事に三の峰山行を終えました。皆様のおかげさまには感謝です。

PS・・・入会された横道様がハサミとのかぎりで木の枝や下草を除去しゴミ拾いも、出来る範囲で登山道整備しながら歩いていました。なかなか出来ない事です。こんな素晴らしい出逢いがツキを引き寄せるんでしょうネ。^^;



去年 2018 年 6 月

登山時報と新聞からの雑感 宮本重信

勤労者山岳連盟の月刊誌 登山時報 に 以下の大垣の会の現状が載っていた。

「数年前までは「会山行当日に別の個人山行を計画することはご法度」だったが、「〇〇山の紅葉が見たい」などその時期限定でどうしても行きたい場合があり、会山行と重複した場合は時期をずらすか、取りやめるか、または非難覚悟で強行するかなど大変悩ましい問題があった そんな中、「自由に山に行きたい」、「山岳会は山に行ってなんぼー」という原点に戻り、今まで続いていた規制を見直した。」 数年前に、あしハイキングクラブでも同じことが議論になった。当時のクラブでは、規約にも、そんなことは載ってなかったが、会の山の前日に白山に行く(雨天で行かなかった)ことが、最も会員歴の古い 当時の副会長から問題だと指摘されての議論だった。どこでも、こうしたことは有るのだと思った。また、大垣でも自由化したとあって、私の考えと一緒にと思った。黙って行かれるよりは公然と届けを出して行く方が安全を考えるとよい。できれば、LINE で誘って、複数で行かれると安全性が高まり良い。また、会のペースや計画では遅いや今一つなら、ある程度自由にして、同じ山に行っても別の楽しみと言うこともあって良いのかもしれない。私も良い花があると、写真を撮って遅れ、別行動となる。大垣のやり方で、年間山行計画は広く会員のニーズを反映するため、会員にアンケート方式で、計画して欲しい山」や「自ら計画する山などを募っているとのこと参考になる。

今年の夏山の唐松岳一五竜岳も みんなの希望からするとどうだったのか考えさせらる。但し、このコースは高山植物も多くて、雷鳥も多くて、変化に富んでいて、眺望も抜群です、それでいて近くて、しかも登りも下りもロープウェイで、真夏の暑い区間をカットできる。お薦めである。

経験豊富な方は、自分で行けるから、できれば初心者でも、安全で、無理のないコースをと思ってしまう。経験豊富で体力のある方は、よりハードな山を、同じ日であっても、木曜の例会やLINE で希望者を募っても良いのかな。それが良くて、みんな大勢で、そちらにと言うこともあって良いのかなと思います。

安全を優先してみんなが楽しめるようにしたいと思う。いろいろ意見の違いや協力の程度も異なりますが、できる範囲で協力して、大勢の人が安全に楽しく登る要求が実現できると良いです。

今の会のメンバーは、いろいろ得意な分野の方が多くて、協力して頂いて、たくさん山の山が楽しく登れ

ている。そう思っています。ありがとうございます。

しんぶん赤旗 6 月 29 日(土)に、連盟の理事長浦添さんの発言が掲載されていた。山岳遭難が過去最高という見出しである。単独登山の遭難者は遭難全体の 37.4%、死者行方不明者は 60%にまで上がるという。私の父は、海岸での魚釣りを一人でやっていて 57 歳で死亡している。相棒がいたら、間違いなく生きていた。

【スポーツ】 2019年6月29日(土曜日)

日本勤労者山岳連盟理事長 浦添嘉徳

山岳遭難が過去最高

昨年起きた山岳遭難の概況が警察庁から発表されました。発生件数2661件(前年より78件増)、遭難者3129人(同18人増)は統計を取りはじめたから最高を記録しました。死者、行方不明者354人で前年より1人減りましたが、依然として高い数値です。

山岳遭難の原因には、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備、体力・技術的に無理な計画などがあげられます。遭難を防ぐためには、

▽体力、技術、経験、体調等に合わせた山を選択する▽余裕のある日程、携行する装備、食料等に配慮した登山計画を立てる▽ルート上の危険箇所などをチェックするなどが重要です。

単独登山の遭難者は全体の37.4%ですが、死者・行方不明者は全体の約60%を占めています。1人で登った場合、トラブル発生時の対処が困難で、重大事故につながるりやす

い。より慎重な登山計画づくりが求められます。ただ、適切な計画を立てることも、事故が起ることもありません。登山計画書を家族や職場、あるいは登山口の登山届などに提出しておけば、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなります。加えて、遭難した際に助けを求める通信機器(携帯電話、無線機、予備バッテリー等)を持つことも欠かせません。それでも、山間部では電波の圏外のことも多い。携帯電話や無線機による救助要請は年々増えているとはいえ、電池の残量不足の例も含めて、約20%の遭難者が通信手段を使えませんでした。

日本勤労者山岳連盟(労山)は昨年、通信が困難でも救助が可能になる「ココヘリ」加入を促進しています。ココヘリは、最大16歳までの受信範囲を持つ小型発信機(ヒトココ)と登山計画書を手掛かりにして、捜索りが遭難者の居場所を特定し、救助組織に引き継ぐ、民間のココヘリは、年会費3600円で連盟社と個人契約します。捜索ヘリの出勤条件は、発信機の携帯と家族や会・クラブへの計画書の提出、下山後、遭難者ももちろん、救助する側にとっても、ココヘリの連携が心強い味方になることを期待しています。

山岳遭難の中でも困難を極めるのが行方不明者の捜索です。遭難者ももちろん、救助する側にとっても、ココヘリの連携が心強い味方になることを期待しています。

代な 拍の全なの 発反

「編集後記」

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。登山時報投稿写真係 mailto:tozanjiho@jwaf.jp